

# 店頭デリバティブ取引に関する事前説明書 対比表

平成 25 年 2 月 11 日

(赤字部分は追加、赤字部分は削除箇所)

現 行	変 更 後
<p>店頭デリバティブ取引のリスク等重要事項について</p> <p>1. 店頭デリバティブ取引は、ハイリスク・ハイリターンな取引であり、元本を保証するものではありません。取引対象である通貨の価格の変動により損失が発生する可能性があります。</p> <p>2. 証拠金取引は、取引に必要な資金に比較して実際の取引金額が著しく大きい（レバレッジ効果）ため、多額の利益となることもあります。逆に多額の損失（預り金以上の損失）となる可能性もあります。</p> <p>3. 相場が不利に動いた場合には損失が発生しますが、株式相場のような値幅制限がなく、市場環境によっては注文が成立しなかったり、お預りした資金以上の損失が発生する可能性があります。また、取引対象となる通貨の金利変動により、スワップポイントが受取りだったものが支払いになることもあり、スワップポイントによる損失が発生する可能性もあります。</p> <p>4. 相場状況の急変により、スプレッド幅（2way プライスによる売りレートと買いレートの差）が広くなったり、意図した取引ができない可能性があります。特にマイナー通貨は取引時間に制限があり、取引時間内でも流動性が低ければスプレッド幅が大幅に広くなったり、レートが表示されなかったり、売買（ロスカットも含む）できない可能性があります。なお、取引が停止される可能性もあります。</p> <p>5. オプション取引は、お客様が当社に所定のプレミアム（オプション料）を支払って、オプションを購入する取引で、将来の一定時点の為替レートが購入時の為替レートと比してそれ以上かそれ以下かを予想し、その結果がお客様の予想通りとなった場合は所定のペイアウトを受取ることができ、予想が外れた場合は購入したオプションが無価値となる取引です。したがってお客様の最大損失額はお客様が支払ったプレミアムの範囲内となり、お客様は短期間で利益を得ることもありますが、投資資金の全額を失う可能性があります。</p>	<p>店頭デリバティブ取引のリスク等重要事項について</p> <p>1. 店頭デリバティブ取引は、ハイリスク・ハイリターンな取引であり、元本を保証するものではありません。取引対象である通貨の価格の変動により損失が発生する可能性があります。</p> <p>2. 証拠金取引は、取引に必要な資金に比較して実際の取引金額が著しく大きい（レバレッジ効果）ため、多額の利益となることもあります。逆に多額の損失（預り金以上の損失）となる可能性もあります。</p> <p>3. 相場が不利に動いた場合には損失が発生しますが、株式相場のような値幅制限がなく、市場環境によっては注文が成立しなかったり、お預りした資金以上の損失が発生する可能性があります。また、取引対象となる通貨の金利変動により、スワップポイントが受取りだったものが支払いになることもあり、スワップポイントによる損失が発生する可能性もあります。</p> <p>4. 相場状況の急変により、スプレッド幅（2way プライスによる売りレートと買いレートの差）が広くなったり、意図した取引ができない可能性があります。特にマイナー通貨は取引時間に制限があり、取引時間内でも流動性が低ければスプレッド幅が大幅に広くなったり、レートが表示されなかったり、売買（ロスカットも含む）できない可能性があります。なお、取引が停止される可能性もあります。</p> <p>5. オプション取引は、お客様が当社に所定のプレミアム（オプション料）を支払って、オプションを購入する取引で、将来の一定時点の為替レートが購入時の為替レートと比してそれ以上かそれ以下かを予想し、その結果がお客様の予想通りとなった場合は所定のペイアウトを受取ることができ、予想が外れた場合は購入したオプションが無価値となる取引です。したがってお客様の最大損失額はお客様が支払ったプレミアムの範囲内となり、お客様は短期間で利益を得ることもありますが、投資資金の全額を失う可能性があります。また、対象原資産である為替相場に直接投資するよりも、一般に損失の割合が大きくなります。</p> <p>6. オプション取引において合理的な投資判断を行うためには、</p>

現 行	変 更 後
6. ～ 13. (文面省略)	オプション取引の理論的根拠等の専門知識が必要となります。 7. オプション取引では、お客様全体のプレミアムの合計金額とペイアウトの合計金額との差額が、当社の収益の源泉となります。 8. ～ 15. (文面省略)
平成 24 年 11 月 19 日	平成 25 年 2 月 18 日